

第3回 西浦地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成29年12月17日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：西浦公民館 講堂

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・前回ワークショップでの議事概要	
検討の進め方とスケジュールについて	1：50
西浦地区の地区利用型施設再配置プラン案について	2：00
・西浦地区の課題と課題解決に向けた方策 ・地区利用型施設再配置プラン案	
(休憩)	2：30
グループ討議	2：40
・地区利用型施設再配置プランの検討 ・評価の視点の検討	
(休憩)	4：00
発表	4：10
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 第2回ワークショップの結果概要（案） 2
- ・ 進め方とスケジュール 10
- ・ 第2回ワークショップふりかえりシートご意見 14
- ・ 事実関係についてのご質問への回答 16
- ・ 西浦地区の課題と課題解決に向けた方策 17
- ・ 再配置プランの考え方 19
- ・ 西浦地区 地区利用型施設再配置プラン案 20
- ・ 評価の視点 22
- ・ 本日の検討内容 23
- ・ （別冊）コミュニティ施設の複合化・集約化事例集

次回ワークショップのご案内

「第4回西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようよろしくお願いいたします。

1 日時

平成30年1月21日（日）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

西浦公民館 本館 2階 講堂

3 お願い

- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日、資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-m a i l：zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた西浦地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

第2回ワークショップの結果概要（案）

1 課題解決に向けた視点

■ 7つの視点ごとの課題と配慮すべき事項

① 地区の活性化

- 空き家や空き店舗などの民間の建物を、小さな公民館のような公共的な場所として使うことも公共施設の再配置と同時に考えていくべきだ。

③ 教育環境の適正化

- 前回のまとめで「小学校と児童館は離れていて不便」との記述があるが、「児童館で行われている児童クラブが小学校と離れていて不便」なので児童館から児童クラブ機能を切り離して、小学校に統合するのがよいという意味で発言したものだ。
- 西浦中学校の生徒へのアンケートを行った結果、今までずっと少人数で過ごしているので、高校に進んでからの友達づくりや人間関係が不安だという意見や体育祭が学年対抗になってしまうため下級生と上級生では勝負にならないという意見があった。

⑥ 将来負担の軽減

- コスト削減のことを考えれば、公共施設を複合、集約してもいいと思う。

⑦ 運営の改善

- 公民館は地区の会合くらいでしか利用していない。子供たちは児童館に遊びに行っているし、祭りの準備や練習は各字の集会所で行っている。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 追加すべき視点

- 西浦は祭りが盛んな地域だが、それにまつわる行事への参加や金銭の負担が若者の地域離れにつながっている面もある。若い世代が出ていかないようにする、人口減少を食い止めるという観点からも公共施設再配置の議論を深めるべきだと思うので、「文化の継承」という視点を提案したい。
- 交通事故や犯罪に対する安全確保の視点を追加してほしい。

2 課題解決のために取り組むべき事柄

■ 活性化

- 大企業や小さくても特色ある技術を持った優良企業を誘致することで活性化を図る。
- 祭りは字単位で行っているので、地区全体としての盛り上がりや外部へのアピールに欠ける。祭りに参加する子供の数も減ってきているので、伝統を受け継いでいけるような工夫をすると共に、地区全体を盛り上げる新たなイベントを企画し、推進していきたい。
- 学校の空き部屋を地域の活動に活用できるとよい。
- 海を観光資源として活用したい。海岸等に自由に出入りできるようになるとよい。龍田浜に魚市場を移転する計画があり、周辺道路整備も進んでいるので、魚市場の移転に合わせて観光施設を整備すれば活性化につながるのではないかと。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 人口減少対策

- 用途地域を緩和して宅地化を進める、市営住宅を建設する等によって人口減少に歯止めをかけることはできないか。
- 地域内に産業を誘致し、雇用につなげ、地域で住み続けられるようにしたい。
- 公共施設を適切に再配置するだけでは人口減少を止められないのではないか。公共施設の再配置だけでなく、若い世代や子育て世代が住みたくなり定着するような取り組みが必要だ。それには、例えば、安い賃貸住宅の提供、税の優遇などを行って居住を推進することが考えられる。また、子どもの医療費負担の軽減、病児保育や祝日保育の実施などによって子どもを預けやすく、働きやすい子育て環境にしていくことが考えられる。
- 西浦地区の公民館は高齢者が集う場になっていない。カフェや食堂があり、農作物や海産物、手づくり品の販売所があるような場になるとよい。高齢者のコミュニティの場となるし生きがいづくりにもつながる。

■ 複合化・集約化

- 小学校と中学校を統合して建て替えれば、体育館、保健室、防災施設などが共有できる。借地代、建築費、防犯にかかるコスト等が抑えられ、経費の節減につながる。教師は小学校、中学校を一貫して子どもを見ることができると。
- 小学校、中学校、保育園が1カ所にあれば、異年齢との交流の場になり、教育的な効果も期待できる。合同で運動会を行えば盛り上がるし、複数の子どもを持つ親にとっては、避難場所が集約されるので災害時に子どもを引き取る際も安心だ。
- 小学校に保育園、公民館、児童クラブ、派出所、消防署を複合し、一体感のある地域の拠点を作ってはどうか。小学校に施設を複合すれば隣接する公民館の敷地を使え、アクセスしやすい。
- 現状は児童クラブが児童館で行われているが、小学校から遠く、手狭にもなっているため、空き教室を利用したりして小学校と児童クラブ機能を一緒にした方がよい。
- 建て替えを機に小学校と中学校をそれぞれ複合化し、地域に学校を中心とした2つの拠点を作ってはどうか。中学校に高齢者向け施設や公民館を複合すれば、多世代交流が生まれ、高齢者がボランティアとして学校に貢献する機会ができるなど、生徒にとっても高齢者にとっても良い効果が期待できる。
- 学校と公民館や地域の交流スペースを複合化すれば、学校と地域住民の交流を増やせると共に、生涯学習をする人達や高齢者とのふれあいが児童、生徒に刺激や良い影響を与えるのではないかと。防音や設計の工夫をすれば静かな学習環境は守られるだろう。
- 児童館は子どものため、公民館は大人のためと施設を分ける必要はない。複合化した方が多世代交流が期待できる。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 子どもの教育環境として児童生徒数が少ないのは良くないと思うので、小学校も中学校も形原地区と統合するのもやむを得ない。遠距離通学が課題になるがスクールバスなどで補うことはできるだろう
- 部活動の選択肢が多く、いろいろな人と接し、競争の機会がある環境の方が子ども達の成長にとって好ましいのではないか。遠方の中学校まで通う地域もあると聞くと、中学校は形原と一緒にした方がよいと思う。
- 十分な数の部活がないからという理由だけで、西浦中学校を形原中学校と統合するのはどうかと思う。形原までは自転車で通うことになると思うが、道路が狭くて歩道もないので危険だし、やはり中学校は自宅近くにある方が通いやすくよい。
- 複合施設をどこの敷地に作るかは、借地代のこと考えた上で検討するのがよい。

■ 立地の現状維持

- 学校や公民館などそれぞれの施設の目的と良さを生かすには、現状の立地で縮小して建て替えた方がよいのではないか。特に中学校は生徒たちが学習に集中できるように、他の施設と複合しない方がよいと思う。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 防災・防犯

- 西浦中学校には津波の際の防災拠点としての役割があるので、移転するにしても存続するにしても、高台の立地を生かせる今の場所で防災機能を維持できるとよい。その際、高齢者や車イス利用者などの弱者に配慮する必要がある。
- 西浦では派出所も消防署もなくなってしまった。派出所がなくなり犯罪や交通事故が増えたのではないか。再配置を機に施設を複合化するなら、安全安心なまちづくりを進めていくために、防犯や防災の機能も入れてほしい。
- 高齢者の移動のしやすさや津波の際の避難のことを考えると、住まいから近い場所に逃げられることが重要だ。避難所は1カ所に集約するより分散した方がよいので、公共、民間に関わらずに設置してはどうか。
- 備蓄品は民間のスーパーや店舗と協定を結んだり、各自で備蓄した方がよい。公共施設の防災機能としては、備蓄品の管理よりも住民の命を守ることを優先して考えてほしい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ アクセス

- コミュニティバスを運行したり、くるりんバスを西浦地区まで延伸することで、小中学生の通学や高齢者の買い物や通院などの外出の足を確保できるとよい。施設の複合、集約に合わせて実現させれば、効率的な運行ができ、施設までのアクセスも整備できるだろう。
- 徒歩や自転車で安全に通学できるように、通学路の整備をすることが重要だ。また、西浦中学校の生徒は、西浦駅まで自転車以外のアクセスが必要だと思っているようだ。
- 施設を複合する際には駐車場の整備も同時にしてほしい。現在の公民館の駐車場はスペースが足りないが、複合化することで駐車場がまとめて確保できることを期待している。
- 運転できない高齢者にとって、車でないと行けない、移動のために誰かの助けが必要になる場所は敷居が高い。高齢者が公共施設に通いやすくなるようにアクセスを整備してほしい。
- 名鉄蒲郡線は西浦住民にとっては不可欠なので、利用を促進したり、地区を活性化することで他地区住民からの継続の賛同を得たりすることで存続できるとよい。
- 名鉄蒲郡線は存続してほしいが、西浦で生活が完結できればそれが一番よい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ 運営・仕組み

- 蒲江市では使用料が無料の公共施設が多いが、有料の市町も多いのだから、将来の財政負担を軽減するために公共施設の有料化を進めるのがよい。
- 空き地を公共施設のために無償で貸すシステムを作ってはどうか。例えば固定資産税の免除などがあれば地主は貸しやすいだろう。
- 公共施設の維持管理やコミュニティバスの運行に、シルバー世代などのボランティアを活用すればコストの削減につながるのではないか。
- 西浦の小中学校の生徒数が少ないのなら、学区境界を少し移動させて、形原地区の学区を西浦側にもらうことで児童生徒数を増やせないか。
- 公民館や体育館などの公共施設の催事スケジュールが、もっと簡単に見られるようになれば参加者が増えるのではないか。

3 その他（質問、ワークショップの進め方など）

- 次回は市から再編の具体案がほしい。
- 公民館のこれからのあり方を考える際には、現状の利用者や管理者の話を聞く機会があるとよいと思う。
- ワークショップに小学校の校長先生は毎回来ているのに、総代さんが来ていないのが残念だ。地域の人たちがまちのことを色々真剣に話し合っている生の声を現場に来て聞いてほしい。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

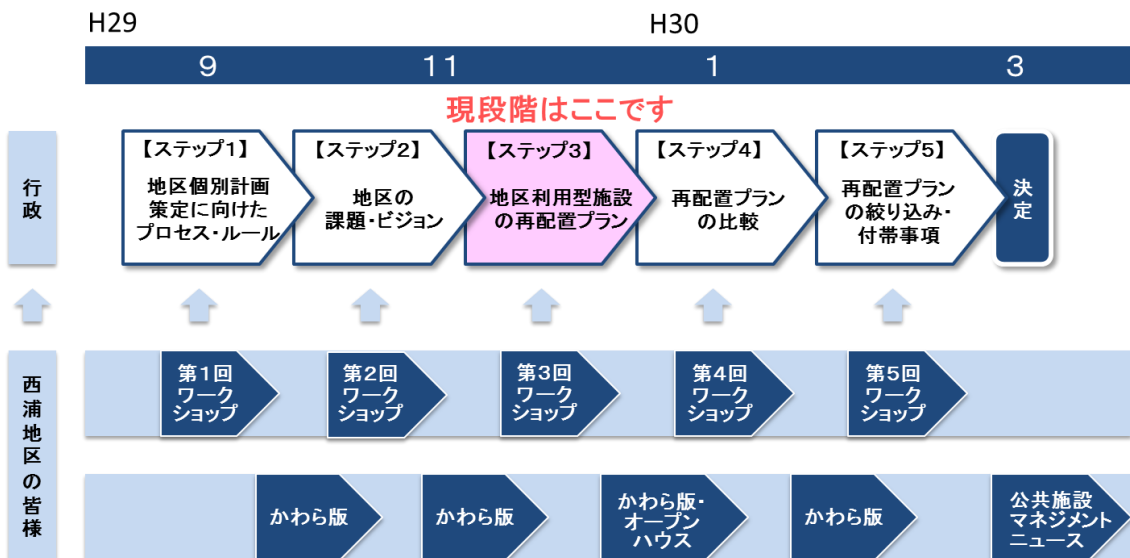
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。

ステップ5 再配置プランの絞り込みをします。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版
- ・ 公共施設マネジメントニュース



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

西浦地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

西浦地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

【公共施設マネジメントニュース】

市の全世帯に配布するチラシです。ワークショップで検討された結果をお知らせします。

4 ワークショップの概要

- ・ ワークショップは、平成30年2月ごろまでに5回程度開催します。
- ・ 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- ・ 会場は、原則として西浦地区内の小中学校または公民館とします。
- ・ 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ・ ワークショップには、公募にご応募いただいた方が参加します。
- ・ 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ・ ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただきます。
- ・ 一般の傍聴者や報道陣が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- ・ グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ・ ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、会の最後に各グループの議論の結果を発表し、後日、各回の成果として取りまとめます。
- ・ グループ討議の途中の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- ・ 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ・ ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行うことがあります。会場内で録音・撮影する場合がありますことをご了承ください。

6

ワークショップの成果

- ・ ワークショップの最終回までにまとめ上げた成果は、複数の再配置プランの評価結果を比較表として整理します。
- ・ 比較表の内容の一部（あるいは全体）は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。
- ・ 各回の成果についても記録として残します。

第2回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 色々な議論が出ていて、これからの西浦にとっていい方向へ向かえば良いと思います。
- 皆さんの意見が、大体同じだと思った。
- いろんな意見を聞けて、良かった。
- 教育環境の適正化について多く語られていた
- 色々な視点の話しがきかれた事。
- 異なるプランの提案があり、それぞれの選択肢の良い所、悪い所のだめだしができてよかった。
- まちづくり、公共施設の他に多意見が出る
- メンバーの考えが分かってきて、話が深まりました。西浦の現状が見えてきた感じがします。
- コーディネーターの人がうまくまとめてくださり良かった
- 中学校の人数について知る事が出来よかった
- 前回は比べ少しずつですがまとまって来た感じがします。
- ファシリテーターの方が上手に集約して下さるので分かりやすい
- 前回より深い話しが出来て良かった。

2 内容について言い足りなかったこと

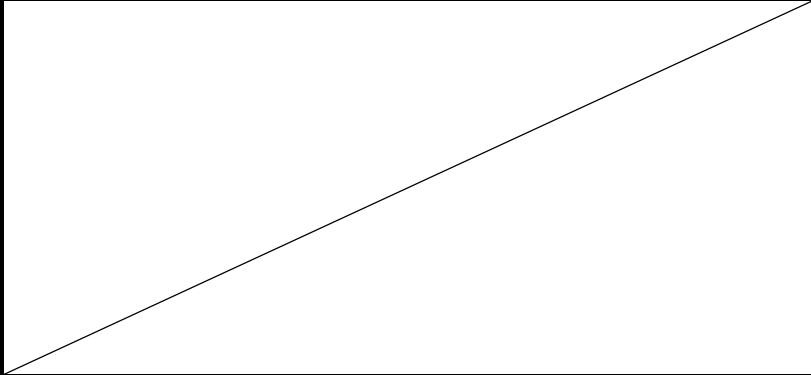
- この話はどこまで伝わるのか
- 市の方策はどこまでかなえていただけるのか
- 市はどのように対応するのか
- 特にないです。
- 今後、当事者からの質疑応答の時間があるとよいと思います。
- 細部（こまかい事）にめるべき
- 話が多岐にわたるため時間配分を考えて、言えないこともありました。
→次回に！

事実関係についてのご質問への回答

ご質問	回答																											
<p>• 西浦では派出所も消防署もなくなってしまった。派出所がなくなり犯罪や交通事故が増えたのではありませんか。</p>	<p>• 西浦交番は平成 24 年 3 月 31 日に廃止されました。</p> <p>• 下表のとおり、西浦地区の人身事故・犯罪の発生件数については交番廃止後の増加傾向はみられません。</p> <p>西浦地区人身事故・犯罪発生件数</p> <table border="1" data-bbox="810 853 1347 1576"> <thead> <tr> <th></th> <th>人身事故発生件数</th> <th>犯罪発生件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21 年</td> <td>19 件</td> <td>37 件</td> </tr> <tr> <td>H22 年</td> <td>11 件</td> <td>48 件</td> </tr> <tr> <td>H23 年</td> <td>14 件</td> <td>49 件</td> </tr> <tr> <td>H24 年</td> <td>16 件</td> <td>38 件</td> </tr> <tr> <td>H25 年</td> <td>17 件</td> <td>25 件</td> </tr> <tr> <td>H26 年</td> <td>15 件</td> <td>29 件</td> </tr> <tr> <td>H27 年</td> <td>9 件</td> <td>30 件</td> </tr> <tr> <td>H28 年</td> <td>11 件</td> <td>34 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(愛知県警察調べ)</p>		人身事故発生件数	犯罪発生件数	H21 年	19 件	37 件	H22 年	11 件	48 件	H23 年	14 件	49 件	H24 年	16 件	38 件	H25 年	17 件	25 件	H26 年	15 件	29 件	H27 年	9 件	30 件	H28 年	11 件	34 件
	人身事故発生件数	犯罪発生件数																										
H21 年	19 件	37 件																										
H22 年	11 件	48 件																										
H23 年	14 件	49 件																										
H24 年	16 件	38 件																										
H25 年	17 件	25 件																										
H26 年	15 件	29 件																										
H27 年	9 件	30 件																										
H28 年	11 件	34 件																										

西浦地区の課題と課題解決に向けた方策

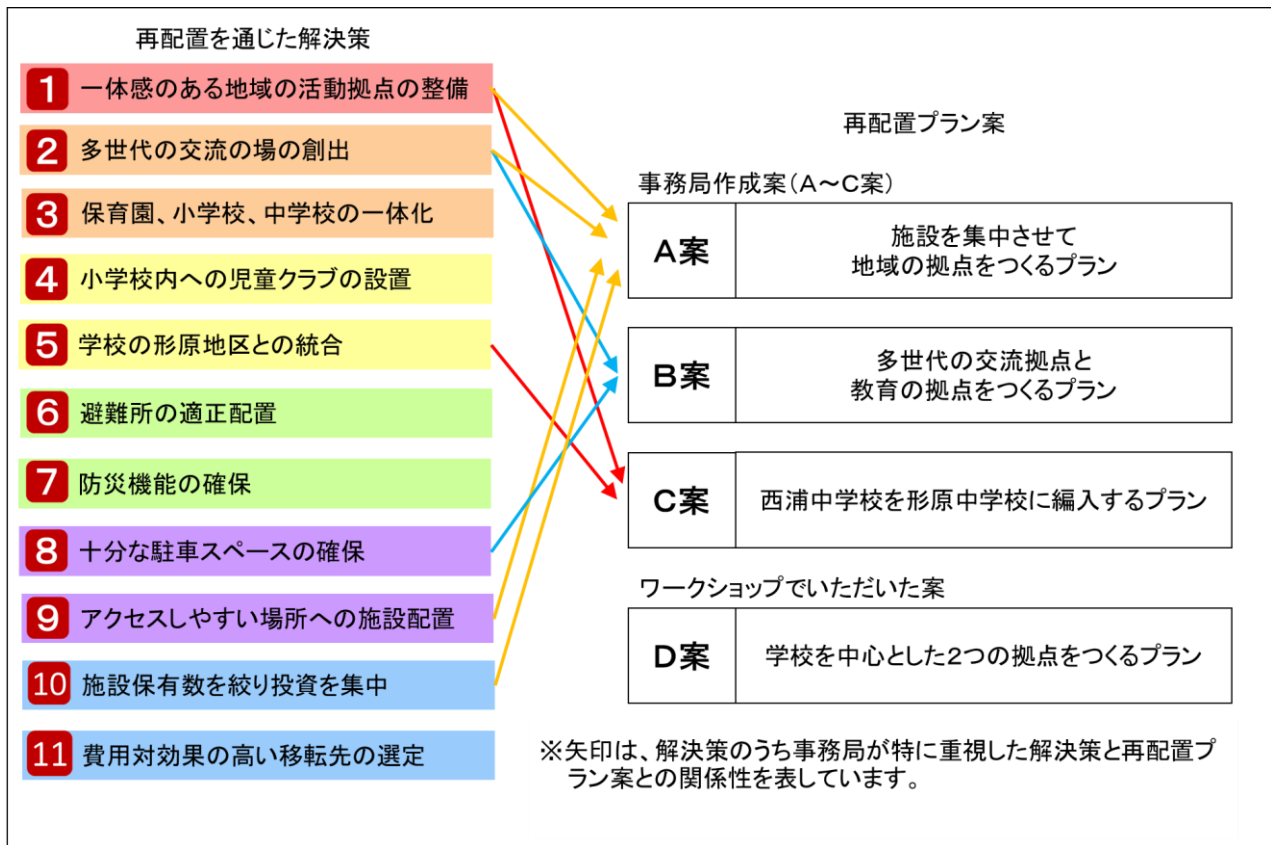
視点の整理 (赤字は、第2回WSでいただいたご意見を元に修正・追加した箇所)		課題解決に向けた方策		
視 点	第1回・第2回WSでいただいたご意見要約、市及び地区の課題・配慮すべき事項	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 地区の活性化 (まちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗を活用してまちを活性化 若い世代が定着しない 積極的に他地区と交流してはどうか 海や自然などの魅力をさらに発信してはどうか 西浦は祭りが盛んな地域だが、行事への参加や金銭的な負担が地域離れにつながっている面がある(文化の継承) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に保育園、公民館、児童館、派出所、消防署を複合化し、一体感のある地域の拠点をつくる 小学校と中学校をそれぞれ複合化し、地域に学校を中心とした2つの拠点をつくる 学校と公民館や地域の交流スペースを複合化し、学校と地域住民の交流を増やす 児童館は子どものため、公民館は大人のためと分ける必要はなく、複合化することで多世代交流が期待できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 一体感のある地域の活動拠点の整備 2 多世代の交流の場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の空き部屋や空き家、空き店舗などを公共的な地域の活動場所として活用する 大企業や小さくても特色ある技術を持った優良企業を誘致する 字単位の祭りでは地区全体としての盛り上がりや外部へのアピールに欠けるため、地区全体を盛り上げる新たなイベントを企画・推進したい 海岸等の出入りを自由にすることで、海を観光資源として活用する
② 人口減少・少子高齢化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> 地区の人口を増やすための取り組みが必要 高齢者が集まって話ができる場所があるとよい 公民館は高齢者が集う場になっていない 子育て環境をさらに充実させ若い世代が住みたくなる地域にしてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のコミュニティの場を公民館に整備する 学校と公民館や地域の交流スペースを複合化し、高齢者と児童・生徒のふれあいの場をつくる 小学校と中学校、保育園を複合化し、異年齢との交流の場をつくる 	<ol style="list-style-type: none"> 2 多世代の交流の場の創出 3 保育園、小学校、中学校の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> 宅地化や市営住宅・安い賃貸住宅の提供、税の優遇などにより居住促進を図る 地域内に産業を誘致し、雇用につなげ、地域で住み続けられるようする 子どもの医療費負担の軽減、病児保育や祝日保育の実施などによって子育て環境の整備を行う
③ 教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒数が少ないため切磋琢磨する環境が作りにくい 部活動の選択肢が少ない 中学校は生徒数が少なく、高校進学後の人間関係作り不安を持っており、また、体育祭では学年対抗になり勝負にならない 児童館で行われている児童クラブの活動が小学校と離れていて不便 	<ul style="list-style-type: none"> 児童館から児童クラブ機能を切り離し、小学校に複合化する 教育環境向上のため学校を形原地区と統合し、子どもたちに部活動の選択肢や競争の機会を提供する 小学校と中学校、保育園を複合化し、合同で学校行事を行う 	<ol style="list-style-type: none"> 4 小学校内への児童クラブの設置 5 学校の形原地区との統合 3 保育園、小学校、中学校の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> (小中学校を形原地区と統合する場合)遠距離通学が課題になるがスクールバスなどで補う
④ 災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 津波が心配 防災情報の提供に課題がある (中学校の)高台の立地を生かせる今の場所で防災機能を維持できると良い 高齢者の移動のしやすさ、津波からの避難を考慮すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の高台の立地を活かし、今の場所で防災機能を維持する 公共施設を複合化する際は、防犯や防災の機能を取り入れる 避難所を分散配置する 	<ol style="list-style-type: none"> 6 避難所の適正配置 7 防災機能の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 高台の避難所を維持する場合は高齢者や車椅子利用者に配慮する 避難所は公共、民間に関わらず設置する 備蓄品は民間のスーパーや店舗と協定を結んだり、各自で備蓄する
⑤ アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学校へのアクセス低下が心配 車を使わない人や高齢者の交通手段を確保 市中心部へのアクセスが不便 中学校は自宅近くにあるほうが通いやすく、形原地区に自転車で通うには道路が狭く歩道もなく危険なので中学校を他地区と統合するのはどうかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設を複合化する際は、駐車場をまとめて確保する 公共施設を複合化、集約化することで、コミュニティバスの運行を効率化する 高齢者が公共施設に通いやすいアクセスにする 	<ol style="list-style-type: none"> 8 十分な駐車スペースの確保 9 アクセスしやすい場所への施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの運行・くるりんバスの延伸で、児童・生徒の通学、高齢者の買い物や通院の外出手段を確保する 徒歩や自転車ですぐに安全に通学できるよう、通学路を整備する 西浦住民にとって不可欠である名鉄蒲郡線の利用を促進。 西浦で生活が完結できればそれが一番良い。(名鉄蒲郡線は存続してほしいが)
⑥ 将来負担(コスト)の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・少子高齢化に伴う税収減 施設の有料化により財政負担を軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校を集約化し、体育館や保健室、防災設備を共有することで、借地代、建築費、防犯に係る費用を削減する 複合施設の敷地は、借地代のことも検討する 	<ol style="list-style-type: none"> 10 保有施設数を絞り投資を集中 11 費用対効果の高い移転先の選定 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地を公共施設整備のために無償で貸すシステムを構築する 将来の財政負担を軽減するために公共施設の有料化を図る 維持管理やコミュニティバスの運行に、ボランティアを活用する

<p>⑦ 運営の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区の学校と部活を統合してはどうか ・ 公共施設の状況が伝わらない ・ 維持管理の担い手を確保 ・ 公民館は地区の会合くらいでしか利用されておらず、子どもたちは児童館で遊ぶようになり、お祭の準備や練習も各字の集会所で準備や練習をしている ・ 中学生からは道路が暗いことや野犬が多いことへの懸念がアンケートで出された 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 形原地区の学区を西浦側にもらうことで児童・生徒数を増やす ・ 公共施設の催事スケジュールを簡単に見られるようにすることで参加者を増やす ・ 公共施設を複合化する際は、防犯や防災の機能を取り入れる
----------------	--	---	---

再配置プランの考え方

再配置を通じた課題の解決策として整理した 11 項目を用いて、それぞれコンセプト（特徴）の異なるA～Cの3つの再配置プラン案を作成しました。D案は第 2 回ワークショップの中でいただいた案です。

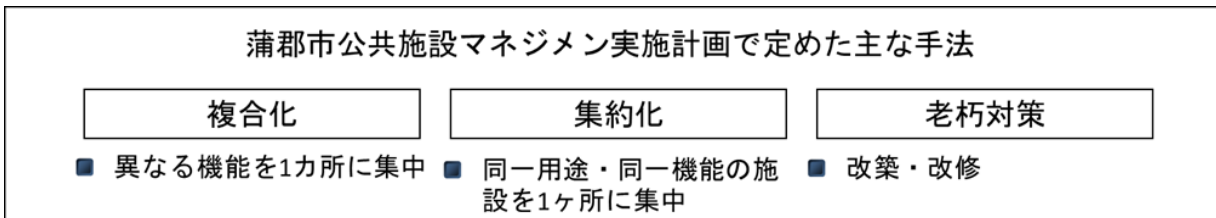
すべての課題を満足に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していくことが必要です。



図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性

（参 考）

再配置プランの作成にあたって、蒲郡市公共施設マネジメント実施計画で定めた主な手法を活用しています。

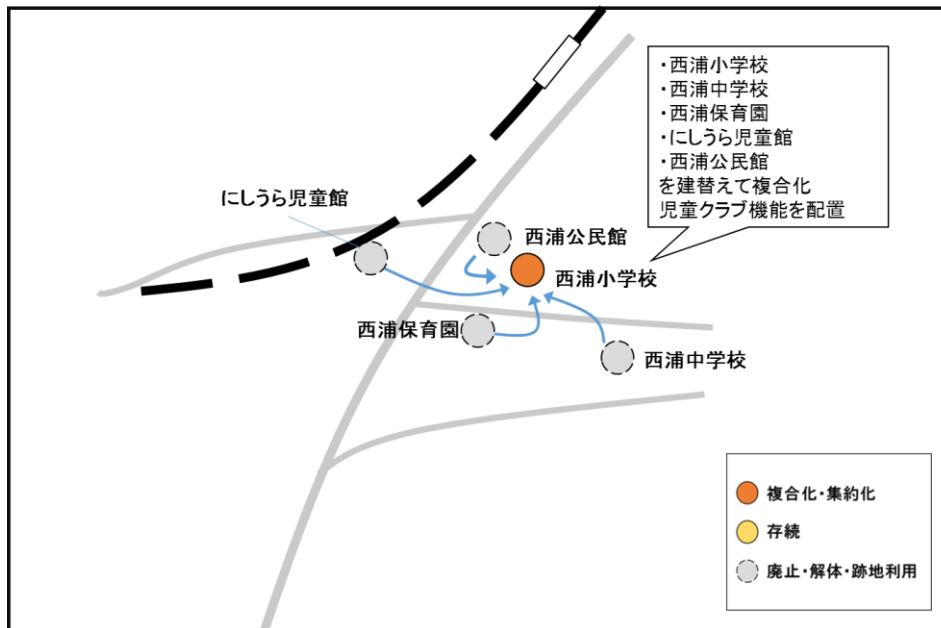


A

施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】1 2 9 10

- 西浦小学校に、西浦中学校、西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館を複合化し、教育・地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 保育園から中学校が1ヶ所にあることで合同での行事実施や異なる年齢間での交流が期待できる。

【関連する解決策】1 2 3 4 7 8 9 10 11

課題

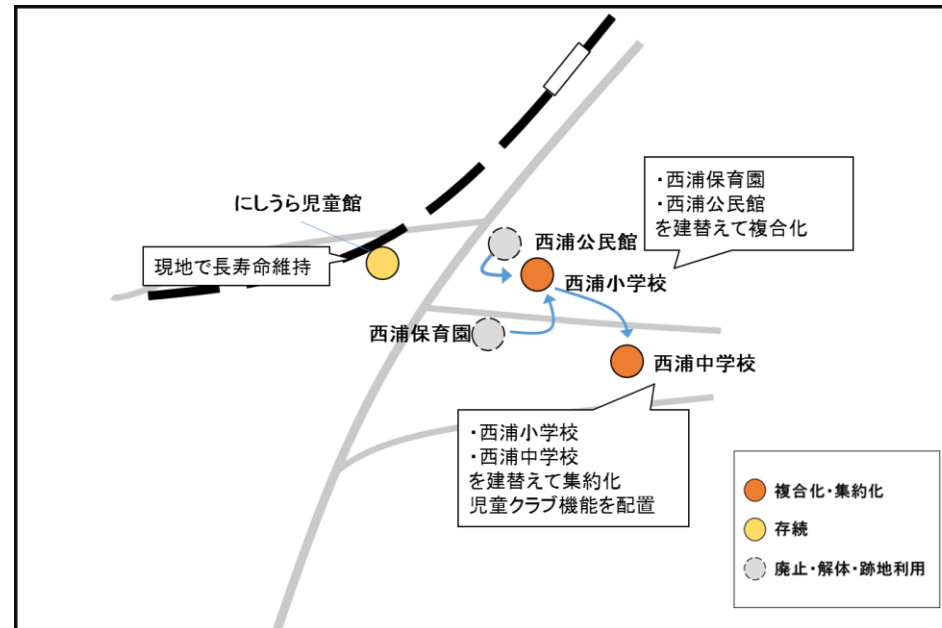
- 児童館の建物は比較的新しく、複合化後の活用方法について検討が必要である。
- 小学校の敷地面積では、必要な機能を十分に確保することは難しい可能性がある。

B

多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】2 8

- 西浦小学校の敷地に、西浦保育園、西浦公民館を複合化し多世代の交流拠点を形成します。
- 西浦中学校に西浦小学校を集約化し、教育の拠点を形成します。



特徴

- 小学校敷地に保育園と公民館を複合させることで、地域で子どもを見守る環境づくりが期待できる。
- 小中学校の集約化により教育環境の充実が期待される。
- アクセス性のよい小学校敷地と高台にある中学校敷地の両方に避難所機能を設置することができる。

【関連する解決策】2 3 4 6 7 8 9 10

課題

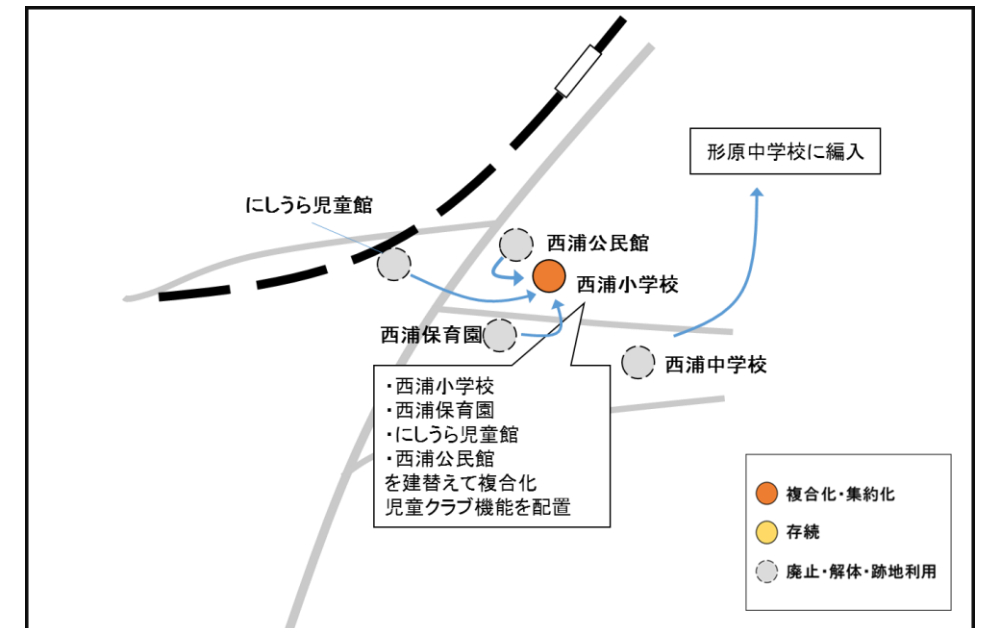
- 小学校が高台の中学校敷地に移転することで、児童にとって通学時の負担が大きくなる。

C

西浦中学校を形原中学校に編入するプラン

【重点を置いた解決策】1 5

- 西浦中学校を形原中学校に編入します。
- 西浦小学校の敷地に西浦小学校、西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館の複合施設を配置し、教育・地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 保育園から小学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 中学校が他地区と統合されることで、中学生の選択や競争の機会を増やすことができる。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 7 9 10 11

課題

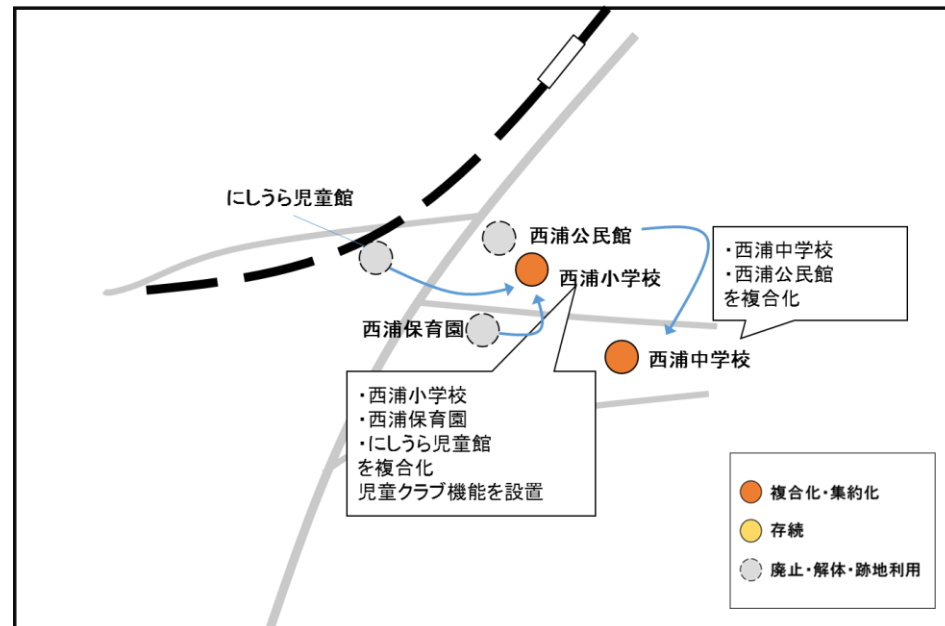
- 中学校の統合に伴い、安全に通学できるようアクセス性に配慮する必要がある。
- 児童館の建物は比較的新しく、複合化後の活用方法について検討が必要である。

D

学校を中心とした 2つの拠点をつくるプラン

【ワークショップの中で発案されたプラン】

- 西浦中学校に西浦公民館を複合化し、多世代の交流拠点を形成します。
- 西浦小学校に、西浦保育園とにしうら児童館を複合化し、子育ての拠点を形成します。



特徴

- 中学校と公民館を複合化することで高齢者や公民館利用者と中学生の交流が期待できる。
- 小学校に保育園・児童館が複合化されることで子育て機能の連携が期待できる。
- アクセス性のよい小学校敷地と高台にある中学校敷地の両方に避難所機能を設置することができる。

【関連する解決策】 **23467**

課題

- 児童生徒数の少ない小中学校をそれぞれ維持していくことになり、コスト負担が大きい。
- 高齢者の利用が多い公民館が高台の中学校敷地に移転することで、利用時の負担が大きくなる。

評価の視点

- 第1回・第2回のワークショップでいただいたご意見をもとに、施設再配置プランを検討していくための7つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置案を比較していく際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
①地区の活性化（まちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な世代が利用でき、イベントにも活用できる地域の活動拠点・交流拠点が整備されているか。
②人口減少・少子高齢化社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者のコミュニティの場は確保されているか。 ● 様々な世代、地域の方が交流できる場は確保されているか。 ● 子ども同士の交流や、地域で子どもを見守る環境など子育てしやすい環境が整備されているか。
③教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童にとって使いやすい児童クラブが整備されているか。 ● 教育環境の向上が期待される複合化、施設配置となっているか（選択や競争、多くの人と接する機会があるか）。
④災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の数・機能・位置は適切か。 ● 災害時に安全に子どもを引きとることができるか。
⑤アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方や児童生徒の通学に配慮されているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。
⑥将来負担（コスト）の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 ● 跡地は有効に活用されているか。
⑦運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● なし <p>※再配置を実施後に配慮しなければいけない事項（付帯事項）として整理します。</p>

本日の検討内容

- ① 前回までのご意見をもとに、課題を解決するための対策として再配置プラン案を事務局で作成しました。再配置プラン案について確認したいことはありますか。各々の案について、期待できることや不安なことはありますか。

- ② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく7つの視点を活用していきます。それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。